

第2回若葉区地域福祉計画推進協議会会議録

日 時：平成22年10月2日（土）
午前9時30分から12時10分
場 所：若葉保健福祉センター3階 大会議室
委員定数：33名、出席委員数：20名
事務局：9名、傍聴人：1名

【1】次第

- 1 開会
- 2 保健福祉センター所長挨拶
- 3 議題（1） 運営企画委員会の設置及び第1回運営企画委員会の報告について
（2） 区地域福祉計画素案の検討について
（3） 第2期地域福祉計画及び今後のスケジュールについて
（4） その他
- 4 閉会

【2】議事の概要

- （1） **運営企画委員会の設置及び第1回運営企画委員会の報告について**
次期計画及び次年度以降の計画推進に向けての仕組みづくりを検討する運営企画委員会の設置及び第1回運営企画委員会の会議報告を行った。
- （2） **区地域福祉計画素案の検討について**
区地域福祉計画素案について全委員から改めて意見を頂いた。
- （3） **第2期地域福祉計画及び今後のスケジュールについて**
千葉市地域福祉課から市民説明会を含む今後の策定スケジュールと市地域福祉計画の概要について説明した。
- （4） **その他**

【3】発言要旨

【議題1 運営企画委員会の設置及び第1回運営企画委員会の報告について】

- | | |
|-------|---|
| （委員長） | 運営企画委員会がどういった経緯で設立されたか事務局から説明をお願いしたい。 |
| （事務局） | 前回の会議で運営企画委員会について諮ったが、その後、委員長及び副委員長と協議し、町内自治会、地区部会、民生委員、老人クラブ連合会から8名の委員を選出した。第1回目の委員会の主な内容としては、区地域福祉計画の素案等についての検討を行った。 |
| （委員長） | 今までは2つのグループで検討してきた。今後は、運営企画委員会で大枠について話し合うことになると思う。お手元に第1回運営企画委員会の議事録を配布している。8月25日に2時間話し合った。丸印はディスカッションのポイントになったところである。
まず、素案についての意見を7名の委員からいただいた。その意見をもとに事務局が中身を検討している。本日の議題2で事務局からその修正点などを説明する。次に市本庁から「主な担い手」のところの「千葉市」の記載については、公助の部分になるのでここからは削除してほしいとの話があった。運営企画委員会としては、「千葉市」の記載はそのまま残して欲しいと具申した。結局その後事 |

事務局で協議し「千葉市」の記載は残ることになった。

次に「実践件数と実践事例について」であるが、「実践事例」を少し削ったほうがよいのではという意見もあったが、情報として有益であるので残すことになった。実践件数の部分については、実際の地域の実践事例と皆さんから集約した件数に大分相違があるので除外することになった。

次に「アンケートについて」あるが、情報を入手するためにアンケートを採ったほうがよいという意見があった。区長名でのアンケートも効果的との意見もあった。回答率を上げて情報を多く集めるためにこれから議論していきたい。

次年度の推進協で討議したい。今年度は準備段階として検討することになると思う。

次に「市民説明会」について、推進協からも出て話をしたほうがよいとの意見があった。詳細は地域福祉課と詰めることになっている。今後の推進協のことについても2、3意見があった。第2回の推進協については国体の関係で今日になった。また、推進協よりは各町内自治会に届いたと思う。

【議題2 区地域福祉計画素案の検討について】

(事務局) 6月26日の第1回推進協後、7名の委員からいただいた意見を基に事務局で検討し、8月25日の第1回運営企画委員会に諮った。そこで素案を修正した。全委員には第2回推進協の開催通知とともに修正した区地域福祉計画を送った。計画全体についての意見もあったが、これからの推進協の検討に活かしたいと思う。個々人の意見として、なかなか計画が進まないという苛立ちがあった。行政が主導しての地域福祉計画は根付かないと思う。地域福祉の文化を地域に根付かせることだと思っている。推進協は計画の牽引者だと思う。推進協の果たす役割を今後検討したいと思っている。誤字や実際と違う内容の訂正の説明はここでは省かせてもらう。

5ページに、実践件数の表があったが、実態とは大分違うので文言のみの掲載とした。今後実態調査をする必要がある。6ページ、(2)の③活動拠点・活動資金のところの下から4行目に「そのために、」以降を加筆した。この訂正は、17ページの施策の方向性2のタイトルに「エリア」を加筆したこととつながっている。

町内自治会に限るわけではなく、地区部会やNPOとの共同・協賛の考えを加えた。健康課から21ページの下から2行目の「健診」は保健福祉センターでは行っていないので外してほしいとの依頼があった。

30ページの上から5個目の○の部分をつけ加えた。たすけあい組織には自治会や地区部会だけではなくNPOやボランティア組織の力もあるためつけ加えた。また56ページの実践例で「若松台ふれあい広場」をつけ加えた。高齢社会をマイナスイメージで捉えることなく、社会資源として高齢者パワーを活かしていることから加えたものである。

さらに45ページの「安心カード」の実践事例も追加した。

(委員) 語句の訂正がある。千葉市若葉区地域福祉計画であるので興味をもって見る方もいる。内容がよいので一文字の間違いがあってもいけないと思う。13ページのグランドゴルフは「グランウンドゴルフ」である。70ページの②の表は、加入世帯ではなく加入率で書くべきではないか。48、78、82ページのあんしんケアセンターは「千葉市」を付けるべきではないか。80ページのデイサービス施設に「シャローム若葉」を加えるべきではないか。84、85ページの私の名前が間違っているので訂正をお願いしたい。

(委員長) 70ページの地区部会加入世帯率について、平成22年度のデータは千葉市4

3. 2、中央区46. 8、花見川区41. 6、稲毛区45. 7、若葉区36. 7、緑区44. 5、美浜区43. 6である。これからの若葉区の数字を改善していかないといけない部分だと思う。

(事務局) さっそく訂正する。社協部分は加入率で記載する。あんしんケアセンターは「千葉市」を入れることを検討する。

(委員) 44ページは「コミュニケーションレス」という言葉を使っているが、40ページでは希薄化と言う言葉を使っているため整合性がない。53ページの「こころのバリアフリー」とあるが、概念が分かりにくい。さらに57ページの「ワーク&ショップ」とあるが、これはどのようなものなのか。

(事務局) 「コミュニケーションレス」は分かり易い表記に変える。53ページは国でも「こころのバリアフリー」という言葉は使っている。障害者への差別偏見をなくそうという観点から使っている。「ワーク&ショップ」は「ワークショップ」では障害者の授産施設としてイメージされている。「ワーク&ショップ」とすることでより幅広く、実践例にある「しょいかーご」のような普通のお店で障害者が働いたり、お店を行ったりしているようなことをイメージしている。

(委員) 授産施設で作った商品を、一般の人に近いところで販路を拡大するためにと作った考え方である。障害者の生活スペースを拡大することである。むしろ「ふれあいショップ」とした方が意図として通じるかと思う。

(事務局) 「ふれあいショップ」等で検討する。

(委員) 71ページの「老人クラブ加入率」であるが、補助金を受けている「老人クラブ」、つまり連合会に入っている「老人クラブ」のことであるのか。

(事務局) この数字は、「老人クラブ」を所管している高齢福祉課で確認したものである。詳細は分からないので後日報告する。

(委員) あえて恥をかってこの数字を出すべきである。この数字を公で聞いたのは初めてである。千葉市は6. 4%、東京は15%、神奈川県は20%であり千葉市の加入率は悪い。先般、市役所で仕分け業務があった。仕分け業務に参加した一般市民の方は、「老人クラブ」に補助金は必要ないという方向性の中で検討している。ところが、柏市は「老人クラブ」には補助金が必要であるという方向性を打ち出している。補助金をいただいても世の中の活動に寄与せず、自分たちの活動だけに使うところが多いことを憂いている。

(委員) 老人クラブの補助金はどう使うべきなのか。

(委員) 老人クラブ連合会としては健康づくり、友愛活動、社会奉仕活動、介護関連などを推進している。連合会に入っていないところはなんの義務もない。監査や報告の義務もない。補助金の額は連合会に入っても入らなくても同じ額である。連合会に上納金を納めたくないから入らないという考えが現実である。勝手気ままなルールが増えている。

(委員長) 自治会の中で老人クラブはどういう形で地域福祉に貢献していくのか考えるべきである。千葉市の中で若葉区の高齢化率が一番高い。加曽利地区も高齢化率が高く驚いている。真剣に考えていかないといけない。

(委員) 71ページに「ボランティア登録数」は社協登録数であるのであればそのように表記すべきである。登録をしてもボランティアしていない人もいる。登録していなくてもボランティアしている人も山のようにいる。市民活動センターでは登録団体は500近くある。掲載する意味を考えた方がよい。

(事務局) 「市社協」と記載することとする。

(委員) 計画を次年度以降どう実行していくのか、どれほど地域に計画が浸透しているのか。広報活動していかないと成果が上がらない。

(委員長) ボランティア登録は全体の傾向として分かるデータがあれば分かり易く分析できる。

- (委員) 社協のボランティア登録は、活動範囲が千葉市全域であるので区毎に分けても意味がない。社協のコーディネートがうまくいっているのか表現していかないと出している意味がない。
- (委員) 数字の説明や分析した結果を出していった方がよい。
- (事務局) 「市社協登録」と記載する。また区別に分けなくて、記載する意図をも記述する。分析については、計画の中で入れていけるかどうかになると思う。「老人クラブ加入率」はこのまま出していく。
- (委員長) 昨年度議論した中で、自治会の会長が毎年変わるとか、社協の活動が低調というデータは入れる必要があるのではないか。現実を踏まえてこういうことをやっていくこととなると思う。よいデータだけを載せてよいか疑問である。
- (委員) 自治会の問題は根が深い。
- (委員長) 自治会がどういう状態か、会長がどう替わっているかのデータが全くない。どこまでデータを出すのか考えていきたい。

10分間休憩

- (委員長) データについては、出典と分析を事務局で検討し掲載をお願いしたい。現状に対しての問題は、次年度の推進協で議論するのがよいと思う。
- (委員) 資料編の「あんしんケアセンター」は貝塚町にあるからといって、その地域だけで活動しているわけではない。「ちば美香苑」もそうであるが、担当区域が決まって高齢者の相談を受けている。役割と担当区域を入れて欲しい。
- また高齢化社会の定義であるが、国連の人口問題研究所では65歳以上の人口が7%以上で高齢化、14%が高齢社会、21%を超えると超高齢社会となっているので、検討してもらいたい。
- 50ページの写真はスペースをとる意味で便宜上入れてあると思うが、活動に関係ある挿絵や写真を入れて欲しい。63ページの表は出典を入れて欲しい。65ページでの13箇所の地区部会の名前や地域を入れて欲しい。
- (委員) 読み易さや親しみ易さを考えるのであれば挿絵や割付も重要である。現在のものを使って挿絵も使って欲しい。地区フォーラム委員の永原さんが前は書いてくださった。
- (委員長) 事務局で対応をお願いしたい。また問題が出たら運営企画委員会で協議したい。

【議題3 第2期地域福祉計画及び今後のスケジュールについて】

- (事務局) まず、区の計画についてであるが「計画書素案」7ページを見て欲しい。5年間の計画期間となっている。次に参考資料1を見て欲しい。上から3段目の「第2次5ヵ年計画」は千葉市の中で基本となる計画で、来年度1年間アクションプランの年として、その後3年間の実施期間を設けている。次に「高齢者保健福祉推進計画」を見て欲しい。この計画は24年から26年度まで。その下の「障害福祉計画」も24年度から26年度まで。「千葉市障害者計画」も26年度までで設定している。「地域福祉計画」もそれらの計画と合わせ、4年間の計画と考えている。
- (委員長) 市がそのように考えているのであれば区でどうこう言えることではない。
- (委員) 確認であるが、地域福祉計画を23年度から26年度までの4年間にすることか。
- (事務局) そういうことである。
- 「千葉市地域福祉計画」の進捗状況を説明する。参考資料1を見て欲しい。第1回を平成20年11月に行い、第2回と合わせて導入部分ということで現状の

把握を行なった。その後、第4回、第5回で区計画の推進状況の把握、第6回、第7回で市計画の策定方針の検討・骨子作成を行なった。現状では市計画素案がまだ固まっていない。第9回を10月19日に予定している。来週中に市推進協委員に素案を送り、確認してもらい会議を開きたい。その後、市民説明会を企画している。市と区の両計画を説明する。市計画は事務局が説明するが、区は誰が説明するかを議論してもらいたい。市民の目線で説明できる委員長などが話してもらったほうがよいと思っている。多くの市民に集まってもらいたいと思っている。その後パブリックコメントを行なう予定である。

- (委員長) 市民説明会の説明者をどうするかである。運営企画委員会でも議論しているが行政だけではなく、推進協からも出席して説明したほうがよいという意見があった。
- (委員) 委員長からの説明でよいと思うが、各団体が参加しているので区長など指示系統がしっかりしている人が説明するのもよいと思う。最終的には担い手をどうするかということになる。
- (副委員長) 推進協の代表の委員長が全て説明するのではなく、行政と前半後半に分けて説明するというのはどうだろうか。
- (委員長) 地域福祉は行政がやっていくわけではなく、市民が背負っていかなければならない。全体についての話は、行政が責任をもたなければならない。
- (委員) このような計画を作る必要があったことは行政が説明すべきである。計画の中身を推進してきたのは推進協であるので委員長なども説明した方がよい。どれくらいの時間があるか分からないが、来場した市民が自分でもできるかなと考えるきっかけになる説明会になればよいと思う。ここに出ている事例を発表してもらうのもよいと思う。ポイントをとらえて市民がやる気になる説明会にしたい。
- (委員長) 推進協の委員で出られる人は出て欲しい。
- (委員) 場所と何人かを教えてほしい。
- (事務局) 場所は保健福祉センターで、各区100名程度を考えている。
- (副委員長) 閑散としている状況となることを心配しているが、広報はどうするつもりか。
- (事務局) 10月15日の「市政だより」で広報する。できる限り近所の方などに宣伝して欲しい。
- (委員) 自治会が200ある。100名来るとすれば50%が目標になるのか。どういう団体に呼びかけるのか、きめ細かい考えが必要である。
- (事務局) 自治会やその他の団体には声かけしない。
- (副委員長) 先月、市長が来た「タウンミーティング」でも40名だった。福祉だけで人が集まるか心配である。
- (委員) かなりきめの細かい体制をとらないといけない。町内自治会の理事や地区部会の役員にも出てきてほしい。計画の認知度が低い。計画を知らない人が多いのが現状である。市の認識を改めてほしい。
- (事務局) 違った視点でご意見をいただきたいという趣旨もあるので様々な方に参加して欲しい。来年度にはリーフレットも相当数印刷する予定である。
- (委員) そんなことならば説明会を開かない方がよい。地域の実践者の方々も市民である。実際の活動者が参加して何が悪いのか。
- (事務局) 自治会の方々に出てもらわなくてもよいのではなく、組織的な動員はかけないほうがよいのではないかという意味である。
- (委員) 6ページの「計画の重点項目」であるが、計画を知ってもらうために町内自治会等とも連携を図るとある。誰が核となって進めるのか書いてない。今回の説明会も戦略的に自治会関係者を積極的に集めて、市民の地域福祉問題であることを知ってもらうべきである。市民説明会の後でもよいので、説明の機会を別に設けるべきである。

- (委員長) スケジュールに則って市民説明会をやればよいのではない。計画を浸透させるためにどういうパンフレットを作り配ったらよいのか考えるべきである。
- (委員) 市は動員をかけないと言っていたが、聞き捨てならない。
- (委員長) 知らせたい人には来てもらわないといけない。市民説明会前にどういう動員体制をとるか議論したい。
- (事務局) 市民説明会用のチラシを作ろうと考えていた。あとはどう配るのがよいかである。
- (委員) 福祉活動推進員をもターゲットにして欲しい。
- (委員長) 各委員もPRして欲しい。
- (委員) 送付する郵便代がなければ、チラシを取りに来ることだろう。何でもかんでも役所頼みではいけない。
- (委員長) 10月31日に市民説明会があることを区連協に働きかけたい。
- (副委員長) パブコメをするといっても反応が薄いものもある。説明会を広く一般市民に向けてやりたいというのはもったもであるが、関係者を集めるものもやってはどうか。
- (委員) 千葉市の出前講座でやったってよいと思う。住民が納得しないと成果が上がらない。
- (委員長) 本日はその他として「たすけあい活動の紹介」をしたかったが時間が無かった。今後情報交換の時間も考えていきたい。本日はありがとうございました。

12時10分をもって第2回若葉区地域福祉推進協議会は散会。